

ここネット通信

日本子ども子育てネットは
日本の子どもが遊びながら豊かに育つことのできる社会の実現と
日本の文化と命をつないでいく子育てを支えていく活動をしている団体です。



新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様にはすこやかな新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、昨年は第8回子ども・子育て支援全国研究大会を10月26日～27日に山口県下関市で開催しましたが、全国各地から500名近くの参加があり盛大に開催することができました。これも偏に地元山口県保育協会並びに山口県子育て支援センター連絡会の皆様をはじめ実行委員の皆様方の支援ご協力のお陰でございます。心から深く感謝申し上げます。

ところで、本年4月からは新保育所保育指針、新こども園教育・保育要領がいよいよ施行されますが、地域の子育て支援に対する子育て支援センターや保育所、認定こども園の果たす役割は益々大きくなるものと思われまます。このような中、第9回全国子ども・子育て支援研究大会は、埼玉県川越市で、平成30年12月3日(月)～4日(火)の2日間に渡って開催することが決まりました。現在、地元埼玉県の実行委員先生方や役員の皆様で研究大会の内容が検討されています。地元埼玉県の実行委員の先生方には大変お世話になりますが、よろしくお願ひ申し上げます。全国研究大会の開催要綱が出来ましたら、改めてご案内申し上げますので、多数の皆様の参加をお願いいたします。

末尾になりましたが、本年が会員の皆様にとりまして幸多い年になることをご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

平成30年1月元旦

日本子ども・子育て支援センター連絡協議会
会長 木本 宗雄

各地の便り

熊本県

「創立20周年を迎えて」

熊本子育てネット（熊本県地域子育て支援センター事業連絡協議会）会長 小岱紫明
当協議会は、平成10年に設立され「子育て支援をテーマ」とした研修団体として、子育て支援センター職員等の資質向上を目指して、研修事業を行なってきました。

杉田峰康先生（福岡県立大学名誉教授・元日本交流分析学会理事長）のカウンセリング研修の受講生の数も、延べ人数7500人を超えており、会全体の資質の底上げに大きく貢献しています。受講生も、熊本県のみならず、沖縄からの参加者もあり、九州各地から参加者を集めています。

他に、山田真理子先生（子どもと保育研究所・ぷろほ 所長）の、スキルアップ研修、吉田道雄先生（熊本大学教育学部名誉教授）の子育てコーディネーター養成講座など着実に力が身につく研修が継続的に実施されています。

平成29年度からこれらの三つの研修（1 カウンセリング研修 2 スキルアップ研修 3 子育てコーディネーター養成講座）が、熊本県よりキャリアアップ研修として正式に認められました。本年度もこの三つの研修はキャリアアップの研修も兼ねて、継続的に実施する予定です。

また今年度は、本協議会が創立20周年を迎えており、平成30年度事業として、現在、記念事業を企画しているところです。

群馬県

「ぐんま子育て支援センター連絡会の活動状況」

ぐんま子育て支援センター連絡会 運営委員長 丸茂 豊

ぐんま子育て支援センター連絡会は平成21年に発足し、今年で設立9年目を迎えます。会員も徐々に増え、今年度は100か所になりました。会員は子育て支援センター、保育所、認定こども園、NPO法人等さまざまです。

活動内容は、年5回ほどの担当職員の研修会や情報交換会に加え、2月には一般向けの「子育て支援フェスタ」を開催しています。このイベントは親子向けのコンサート等で楽しんで頂くと共に子育て支援センターの広報活動も併せて実施しています。

埼玉県

「埼玉大会にご参加を！」

ここネット埼玉 代表 剣持 浩

あけましておめでとうございます。昨年の山口大会からバトンを受け取り、今年の全国研究大会は12月3日（月）～4日（日）に埼玉県のウエスタ川越にて行うこととなりました。ニューズレター11号でもお詫びして訂正をいたしました。山口大会で告知した日程を変更しての開催となります。

埼玉ではこの大会準備を機に「埼玉ここネット」という連絡会を作り、県内で子育て支援事業を行っている団体がつながり始めました。社会福祉法人やNPO法人、医療法人などが施設の枠を超え支援者同士がつながることで、お互いが影響しあい日常事業の活性化につながることを期待しているところでもあります。

埼玉大会ではこれまでここネットが大切にしてきた学びを継続して実施することと、新しい視点で参加の皆さんと考える機会、そして楽しく研修に参加していただく時間を計画しております。ここネットならではの深い学びと埼玉らしさを融合し、皆様に「参加してよかった」と思っただけの大会を目指して準備を進めてまいります。7月には詳しいご案内を差し上げる予定です。埼玉でお待ちしています。

千葉県

「保育料を軽減してほしい！
我が子が、泣くと『うるさい』とか『迷惑顔』しないでほしい！」

日本子ども子育て支援センター連絡協議会 副会長 川副孝夫

「ごめんなさい、ごめんなさい」と謝ってばかり。
なぜ子育てが、周りの皆さんから、よろこばれていないのですか。
「かなしい」「さみしい」「つらい」と思ってしまうのです。
と子育て中のお母さんの声。

「幼児の無償化？」助かります。

「お金をばらまくシステムより、社会全体が、子どもと子育てする私たち（お母さんやお父さん）に、温かな声かけ、温かなまなざし、手を差し伸べて頂ける社会になってほしいです。子育て支援に関わる方々をお願いします。政府に提言して下さい」の声をあなたはどのような行動を起こしますか。

社会全体が、尊い子育て中の家庭の育みの価値と感謝の意識の変革が必要です。それを醸成していくためには、子育て支援をする関係者が、有する機能の拡充を図る行動をしなければならないと決意しました。

富山県

「平成29年度の活動について」

富山県子育て支援センター連絡協議会 会長 柳溪暁秀

全ての家庭を対象に地域のニーズに応じた多様な子育て支援を充実させ、県内及び全国の支援センター間の連絡を行い、富山県の子育て支援の発展と資質向上を図ることを目的として活動しています。

会員施設 82箇所（県内全市町村：15） 役員数 19名

平成29年度の主な研修として

総会 6月21日（水）

「乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達」 東京大学 遠藤利彦 氏

実技研修 11月12日（日）

「楽しさ発見！ パネルシアターの作品と作り方」 道灌山学園 阿部恵 氏

職員研修 2月9日（金）

「食べる力、しゃべる力、笑う力こどものお口、元気の要はおとなのお口」 飯野眞樹 氏

養成校との連絡会 2月26日（月） 富山国際大学

『第8回子ども・子育て支援全国研究大会』における「大会宣言」と「大会決議：乳幼児のメディア機器使用に対する注意掲載について」は、会員として多くの方に広めなければならないと考え、「富山県議会議員との懇談会」、「富山県民間保育連盟理事会」、「滑川市子ども・子育て会議」、「滑川市小中学校PTA役員会」、「本園の保育の出前」等で発言しています。そして、これからも全ての子どもの健やかな育ちを実現するために、地域に開かれた子育て支援と地域の関係機関との連携を図り続けなければならないと考えます。

終わりに、『第8回子ども・子育て支援全国研究大会』の開催にご尽力されました山口県の方々に感謝申し上げますと共に、平成30年12月に埼玉県川越市で開催されます『第9回子ども・子育て支援全国研究大会』の盛会を願っています。

合掌

宮崎県

「宮崎県協議会の活動について」

宮崎県子育て支援連絡協議会 会長 木本宗雄

宮崎県こども支援連絡協議会では平成 29 年 6 月 22 日に総会と研修会を開催しました。午前中に前年度の事業報告と決算、平成 29 年度の事業計画予算などを審議し、午後は熊本市の山東こども園の村上千幸先生に「寝る子、食べる子、遊ぶ子 元気」と題して、子育て講演会を開催しました。平成 28 年度の主な活動としては、平成 29 年 2 月 4 日に東京大学の大学院教育学研究科教授の遠藤利彦先生を招いて開催した子育て支援従事者セミナーが挙げられます。遠藤先生の「愛着」についての講演は子育て支援に従事する者にとって役立つ内容で、受講者の皆さんにも大変好評でした。

本年度のこれからの活動としては、昨年に引き続いて 2 月 8 日に宮崎市の宮崎観光ホテルで、午後 1 時から子育て支援従事者セミナーを開催します。セミナーの内容は、先ず、延岡市の「おやこの森」の活動状況について発表してもらい、その後、京都大学大学院の教育学研究科教授の明和政子先生の講演をお願いしています。近県の先生で都合のつく方は、ぜひ参加くださいますようご案内申し上げます。

山口県

「保育と子育て支援」のレベルアップにつながった全国研究大会

山口県子育て支援センター連絡会 会長 中川浩一

昨年 10 月 26 日・27 日の 2 日間に亘り『第 8 回子ども子育て支援全国研究大会 2017 in 山口』が下関市で開催されました。全国から多数お集まり頂き、幸いにも天気にも恵まれ、盛会の内に無事故で終えることができました。この紙面をお借りして心から厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。振り返ると山口県として 2 回目の引受でしたが、前回に比べると格段に充実した大会だったと感じます。それは 10 年前はできなかった県内各地から推薦された幹事（大会運営役員）の皆さんが何度も顔をつき合わせて話し合い、さらにココネットの役員の方々とも一緒に知恵を出し合い、汗をかき合って作り上げた点です。この一年間は大変でしたが、県全体の「保育と子育て支援」のレベルアップに確実に繋がったと思います。これからの山口県の子育て支援の実践がどのように深まり広がっていくか楽しみです。

さて、県連絡会の取り組みは、平成 9 年に立ち上がって以来、年に 1 回の総会&情報交換会と研修会という 2 本立です。加えて昨年度からは「子育て支援員研修」の中の『子育て支援拠点事業コース』の研修を県主導のもと、NPO の方々と一緒に県内 3 会場（東部、中部、西部）で一日 6 時間（6 コマ）講義の内の 2 時間（2 コマ）を担当しています。本年度は、「地域子育て支援拠点を全体像で捉える」と「講座等の企画」の 2 コマです。最初の「地域子育て支援拠点を全体像で捉える」の目的としては、1. 関連制度、地域子育て支援拠点事業の経緯を理解する 2. 基本 4 事業の内容、予防型支援の必要性について理解する 3. 支援者の役割について理解する

もう 1 つの「講座等の企画」は、実際の事例を基に具体的な対応方法について理解するです。それぞれの会場に近い連絡会のメンバーで担当しました。受講者は、これから保育園や子育て支援拠点で働きたいと思っている方、すでに子育て支援拠点で働いている方、さらに保育士の資格も持っている方など受講の目的やレベルもまちまちなので、どこにターゲットを絞るべきか迷うこともありますが、とにかく 100 名の受講者の一所懸命の姿にはこちらが襟を正さずにはおれません。ぜひ今後各県の組織や支援センターでこの「子育て支援員研修」への参画ができるといいなと思います。

山梨県

「地域に存在するかけがえのない社会資源として」

山梨県保育協議会 廣瀬集一

第8回子ども子育て支援全国研究大会へ、山梨からも参加させていただきありがとうございました。職員からは大変ハードでしたが有意義な研修会に参加でき、園内研修では少し興奮気味での報告がありました。現在山梨県では全県下での支援センター連絡会は設立できておりませんが、甲府市では地域子育て支援センター16か所(民設15公設1か所)、幼児教育センター3か所(公設)、つどいの広場1か所(公設)の連絡会議が開催されています。市内の宮前保育園は全国保育研究大会第11分科会で「子どもと子育て家庭の笑顔をつくる」として、甲府市の子育て支援体制の現状が、全国のトップクラスの体制にあることを伝えました。

また、山梨県保育協議会には地域子育て支援部会があり、調査研究と研修会を企画しています。

山梨県では、28年度から「保育課題等検討委員会」が立ち上がり、今年度2年目の就職フェアと見学ツアーを実施し、かつ新制度の課題に行政と現場と養成学校が一体となって対応できる仕組みが来ています。

県の対応は大変迅速でキャリアアップの認定研修を山梨県保育協議会に事業委託とし、昨年11月から4分野の認定研修を実施しています。今後は研修体系を山梨県と保育所、認定こども園、幼稚園団体と共に創り上げ、教育保育の質の向上と処遇の改善を実現していく体制が整いつつあります。

NPO 法人フードバンクやまなしの「子どもの貧困に対する活動」に県保協と連携する中で本年度は、会員の園での実態アンケート調査をさせていただき、結果を30年度の事業計画に組み込んでいけたらと思います。

役員寄稿

「子育て・保育 スターティング・カリキュラムの意味を問う？」
(人生の始まりの 教育・保育計画)

ここネット幹事 中山 勲 (社会福祉法人 童心会 理事長)

先にOECDは、スターティング・ストロング(人生の始まりこそ力強く)と題する報告書をまとめた。今この保育の世界は、「あらゆる学問は 保育につながる」 また「子育ては学問にとって最高難度の研究テーマである」と声高に謳歌している時代に、人生の始まりの教育・保育計画は何を見つめるべきなのだろうか? 平成27年7月1日、東京大学大学院教育学研究科において、発達保育実践政策学センターが発足した。このセンターでは、保育を担う社会と政策、子育てや保育の実態、乳幼児の発達の機構、保育に関わる教育等について、社会科学、人文科学、自然科学までをカバーするあらゆる学問領域の専門家が集まって研究できる場を構築することを目的としているようだ。改めて「ヒトの成り立ち」を考えてみたとき、ヒトの最初期の大切な時期の生命を預かる保育者は、それだけに人が人生の中で最も大きく変化する成長の喜びを味わうことができる。だから、私は早急にスターティング・カリキュラムの重要性を認識しなければならないと思っている。

私たち(社福)童心会の目指している人間教育の目標は、「思いやり(慈悲)と生きる力(智慧)」である。先進国の縦断研究に学ぶまでもなく、「人間として如何に生きるべきか?」を問うことが保育の質ではなく本質なのであると思っている。筑波大学院教授 古田博司氏の言によれば「近代教育は終わった。次へ進め」とあった。

「新年に向けて」

ここネット監事 国重俊亮

児童の権利条約批准のあと、児童虐待件数は増えこそすれ、減っていません。このことは現実の厳しさを浮き彫りにしております。

ある調査で、過去3年、保育所において児童に被虐待への対応をしたか、という問いに対して、「対応した」が35.6%（公営35.4%、民営35.8%）で、都区部・指定都市と中核市の公営において5割を超えていました。民営では3割であり公営の対応が高かったものです。対応人数は1人から2人が圧倒的に多いです。都市部に多い結果は、子育ての孤立化が多いといえる結果と思われます。（平成22年3月）

保育所には長年にわたり蓄積してきた子育て知識と経験があり、これら子育てについての正しい考えや育児のノウハウを親御さんたちに提供する必要を感じます。核家族化の進行により、子育て中の親たちは、家庭内や近隣に子育てに関する相談相手や助け手を見出せず、孤立感・負担感を持っていることが問題となっており、子育てうつやノイローゼ、家庭崩壊、児童虐待の芽を早いうちに解消し、不安になる原因に踏み込み相談への橋渡しとすることが求められております。

もうひとつの問題は地域の教育力の低下です。地域社会の崩壊とか無縁社会といわれて久しいものです。社会状況の悪化から地域の公園や路地から子どもの遊ぶ姿が減りました。

親子で家にいることが多いのですが、それだけに孤独な育児が顕著となっています。

疎外や孤独が児童虐待へ容易に移行することはよく知られており、重大問題となっています。これは貧困家庭でなくても直面する危機であり、保育所、こども園、幼稚園であろうと広場であろうと手を差し伸べ、あるいは関係機関へ連携することが肝要です。

その前向きな手段・方法を具体的に教え合う「ここネット」でありたいと存じます。現代社会に潜む孤独や疎外、そして家庭崩壊をいかに対応してゆくか、その一翼をまた一端を担えれば幸いと思うものです。みんなでつながる子育て支援を細くとも長い道として歩んでまいりましょう。

開催予告

★ 子育て支援センター実践交流セミナー

テーマ 「現実と向き合う子育て支援とは」—今私たちに求められている子育て支援を考える—
主催 子育てセンター実践研究会
共催 日本子ども・子育て支援センター連絡協議会（日本子ども・子育てネット）
日時 平成30年1月25日（木）・26日（金）の2日間
会場 大妻女子大学 千代田キャンパス 東京都千代田区三番町1-2
参加費 8,000円（会員） 10,000円（一般）
※詳細については開催要項をご覧ください。

★ 宮崎県子育て支援従事者セミナー

実践発表 「おやこの森」の子育て支援について おやこの森 施設長 小澤のり子
講演 テーマ 「ヒトの子育ての原点を考える」
講師 京都大学大学院教育学研究科教授 明和政子先生(比較認知発達科学)
主催 宮崎県子育て支援連絡協議会
共催 一般社団法人 宮崎県保育連盟連合会
日時 平成30年2月8日（木）13時00分～16時30分
会場 宮崎観光ホテル 東館2階 日向の間
参加費 宮崎県子育て支援連絡協議会加盟の会員は無料です。
宮崎県保育連盟連合会加盟の会員、その他の方は1,000円です。
参加申込 平成30年1月31日（水）締切
（お問い合わせ先） 宮崎県保育連盟連合会 事務局
〒880-0007 宮崎市原町2番22号 宮崎県福祉総合センター内
FAX：0985-28-5989 ・E-mail：office@m-hoiku.or.jp

★ 関東ブロックセミナー

平成29年には保育の現場でしかできない2件の重要な調査研究事業を実施しました。1件目は平成28年4月に起きた熊本地震時において「保育園や保育士が果たした役割」を日本多機関連携臨床学会との連携のもと調査検証しました。普段はなかなか陽が当たることがない保育という仕事の場面で、「保育士が何を考え、何をしたのか」を明らかにすることにより、大規模な災害時に保育士として何ができるのかを明らかにしました。

2件目は山口県における子育て支援に関する全県一斉調査です。保育所の日常の保育がどの程度の支援につながっているのかを明確にするために、どのような保育が子育て支援につながっているのか、利用者にどのように貢献しているのかを定量的に把握するものです。

保育の現場で必要とされる極めて重要な2つの調査結果が出てきましたので報告をさせていただきます。

日時 平成30年2月18日（日） 13時00分～16時00分

場所 日本女子大学 目白キャンパス 新泉山館1階・大会議室

http://www.jwu.ac.jp/content/files/grp/access/access_map_mejiro.pdf

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1 Tel.080-5378-2263（当日：丸谷）

研修1 くまもとプロジェクト報告—熊本地震被災後の保育所・子育て支援センターの状況と果たした役割

講師 丸谷充子先生（浦和大学こども学部こども学科 准教授 日本多機関連携臨床学会副理事長）

研修2 「保育所保育の現状と保護者に対する子育て支援に関する調査」から見えてきたこと

講師 田中浩二先生（東京成徳短期大学准教授）

参加費 1,000円（会員外1,500円 当日徴集します）

申込 申込用紙（HPからダウンロード） 2月10日（金）締め切り

FAX（096-273-3322）又はメール（info@kokonet.org）にて申込み。

問合せ 事務局（山東こども園 担当三原）熊本市北区植木町有泉829

★ 第9回子ども・子育て支援全国研究大会 於：埼玉県川越市

テーマ 「未定」
主催 日本子ども・子育て支援センター連絡協議会（日本子ども・子育てネット）
主管 ここネット埼玉
時期 12月3日（月）・4日（火）の2日間
会場 ウェスタ川越 埼玉県川越市
参加費 参加費 14,000円（会員） 15,000円（非会員）

※ 正式な開催要項は7月中に発送を予定しています。もうしばらくお待ちください。

★ 第8回

子育て支援全国研究大会 2017 のオフィシャル報告書

2月にここネットのホームページにアップする予定です。
必要な方は下記よりダウンロードしてご利用ください。

日本子ども・子育てネット

検索

<http://kokonet.org>

★ 子育ての仲間につながる登録はお済ですか？

メール・アドレスを登録されている会員にはニュースレターや各種案内を送信しています。

ただ、会員登録のときにメールアドレスを登録されていない場合には送信できませんので是非、アドレスの登録をお願いします。

今後の会員の皆様へのここネットからの情報はニュースレターとホームページないしメールで送信したいと思います。

詳しくは下記の事務局に問合せ下さい。

日本子ども・子育てネット（日本子ども・子育て支援センター連絡協議会）

〒861-0123 熊本県熊本市北区植木町有泉 829

TEL 096-272-0673(山東こども園・主幹保育教諭 三原 担当)

096-272-0699(支援センター)

FAX 096-273-3322

【メール】 info@kokonet.org

【ホームページ】 <http://kokonet.org>